

Monthly Report

Vol.66 / 2011 Oct.

「2011東北こども博」盛会裏に終了



10月9、10日に被災地の子どもたちにスポーツやアニメのキャラクターで楽しんでもらうイベント「東北こども博」（主催：2011東北こども博実行委員会）が本学を会場に開催され、両日とも天候に恵まれ13,800名の方々に来場いただきました。仙台大学としてはスポーツエリアとお祭りエリアを担当し、学科単位での企画や教職員有志によるイベント、ちびっ子スポーツ広場のキックターゲットなど各種企画によりイベントを大いに盛り上げました。

学生も約360名がボランティアとして活動してくれました。イベントはたいへん好評で、「来年も是非開催してほしい」という声や「子ども達は学生が盛り上げてくれることを喜んでいた」という感謝の声も多く聞かれました。また、この様子は開催期間及び前後に「日本経済新聞社」をはじめ、のべ15社もの新聞・テレビ局に取り上げられるなど、反響の大きさを物語っています。関わった皆さまたいへんお疲れ様でした。



目次

東北こども博盛会裏に終了	1
仙台大学高校会より寄贈 中国、タイ王国から留学生	2
朴沢学園高等師範科卒業 生から寄贈品	3
伊達なSPORT PROJECT 海外遠征に出発	4
学生が地域イベントに協力	6
海外研修報告(台湾、フィン ランド、アメリカ)	7
朴准教授より海外研修報告	10
学生の活躍	11

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございまし
たら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

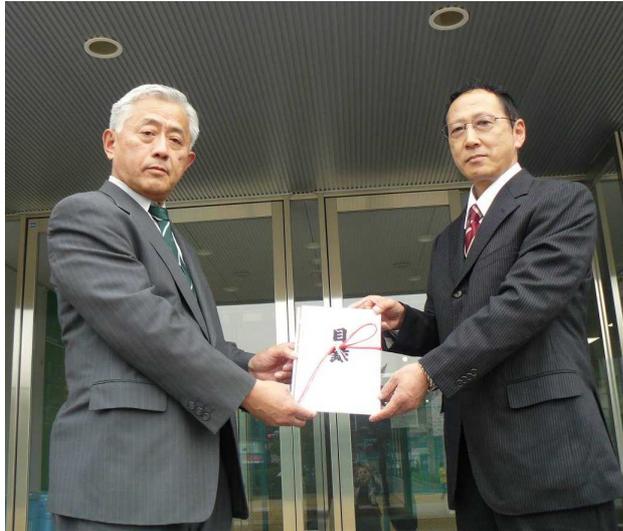
土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

仙台大学高校会より第5体育館へ時計(目録)が贈呈

～ 1人でも多くの高校教員輩出を願い～



10月13日(木)、仙台大学高校会の会長である
たきかわまさひろ
滝川雅啓氏(4回生)より、朴澤学長に対し、第
5体育館内に設置する時計の目録が贈呈されまし
た。

仙台大学高校会とは、平成15年に発足し、主
に宮城県内の高校教員になられた本学の卒業生
で構成されている会で、現在、約150名の会員
の方々が教育現場の第一線で活躍なさり、また、
現役引退後は後進の育成にご尽力くださって
います。

滝川会長によりますと、第9回の総会にて母校
校である仙台大学へ何らかの寄付をしたいとい
う意見が出て、新設された第5体育館に時計を贈
呈することにより、それを目にした学生達から
1人でも多くの高校教員が輩出されるよう願
いを込めたそうです。目録を受け取られた朴澤
学長から「同窓生が常に母校のことを気にかけ
てくれているのは大変有難く、時の経過を刻む
時計を寄贈いただくことは、後輩である現役学
生にとって、先輩との繋がりを肌で感じるこ
とになります。」と感謝の言葉がありました。

時計は現在同会で選定中だそうで、今後、第
5体育館には、諸先輩方の熱い思いが込められ
た時計がお目見えし、高校の教員を目指す学
生達にとって力強い励みとなることでしょう。

中国からの留学生



10月13日(木)国際交流提携大学から来年4月に
大学院に入学予定の留学生5名が挨拶のため馬
臨時職員と共に学長室を訪れました。留学生た
ちは10月17日から3ヶ月間、東北多文化アカ
デミー(仙台市)で日本語を学び、4月からの
大学院入学に備えます。

写真左から	ほう ちん 陳 そん 孫 る 盧 たく 卓	うん か き けん けん けん ぶんたつ	さん さん さん さん さん さん	<瀋陽師範大学> <吉林体育学院> <吉林体育学院> <上海体育学院> <上海体育学院>
-------	---	--	----------------------------------	--

シーナカリンウィロート大学からの留学生



10月3日(月)に国際交流提携大学シーナカ
リンウィロート大学(タイ王国)の留学生4名
が挨拶のため鎌田教授、大山教授と共に学
長室を訪れました。ソンプラソン・プラセ
トスリさん(写真:左2)とタニツ
ト・リンプラセルトさん(写真:左3)は10
月から3月までの半年間、学部の科目等履
修生として本学で学びます。

マネーノート・カナンタイさん(写真:右
2)とテラスワト・ワタナサクさん(写真
右3)は5月からの科目等履修生としての
日程が終了したことを朴澤学長に報告し、
感謝の言葉を述べました。

朴沢学園高等師範科卒業生から寄贈品



左から渡辺さん、赤松さん、近江先生

10月7日（金）に朴沢学園高等師範科卒業生の渡辺京子さん(旧姓：増澤 / 昭和14年度卒)、赤松くに子さん(旧姓：吉田 / 昭和15年度卒)が朴沢女子高等学校で教鞭をとられていた近江孝子先生と共に朴澤理事長・学長を表敬訪問し、当時の貴重な研究作品や雛形などをご寄贈くださいました。

お二方には7月の仙台市指定有形文化財に指定された際にも昨年から客員教授の伊達宗弘先生の聞き取り調査に協力いただき、資料の来歴の証言を行っていただいております。今回も伊達先生が聞き取りを行い、その結果「加藤陸奥雄先生(本学園の元理事で第13代東北大学総長)が撮った写真を元に作品を作成したものもあったそうで、加藤先生が如何に朴沢学園のために献身的な協力を惜しまなかったかが明らかになりました。」と話されています。

朴沢学園の「裁縫教育資料」は裁縫教育を知る上で貴重な資料で、7月1日に掛図や教科書類、課題研究提出物など557点が仙台市指定有形文化財に指定されました。この他にも貴重な資料はまだあり、今回寄贈いただいたものも含め、文化財の指定への申請が予定されています。

朴沢学園裁縫教育資料展を開催 11 / 1(火) ~ 6(日)

11月1 - 6日に東北電力グリーンプラザを会場にして、今年7月に仙台市指定有形文化財に指定された朴沢学園「裁縫教育資料」の展示会を行います。近代日本の裁縫教育の展開をその初発からたどることができる重要な歴史資料を展示しますので、是非ご来場ください。



【仙台市指定有形文化財】
(平成23年7月11日指定)

朴沢学園 裁縫教育資料展

日時 11月1日(火) ~ 6日(日)
10:00 ~ 18:00

会場 東北電力グリーンプラザ
「プラザギャラリー」

パネルディスカッション
11月5日(土) 13:30 ~
会場 / コミュニティルーム

主 催 学校法人 朴沢学園 (仙台大学・明成高校)

後 援 仙台市教育委員会 財団法人宮城県文化振興財団 河北新報社

お問い合わせ (学) 朴沢学園法人事務局 Tel:022-278-9136 Fax:022-278-6219 E-mail:somu@hozawa.ac.jp
ポスターデザイン 明成高校デザインアートコース 相澤節志 相取由希奈



「伊達なSPORT PROJECT」選手が第1回冬季ユースオリンピック出場を懸けて遠征に出発



10月25日(火)、スケルトン競技での第1回冬季ユースオリンピック出場を目指している「伊達なSPORT PROJECT (<http://www.sport-project.jp/>)」の3選手が、ユースオリンピック出場予選会が行われる北米に向けて出発しました。出発式にはご父兄にも参加いただき、選手たちから決意表明として「女性が一人なので不安はあるが、ユースオリンピックの出場権を獲得するために一生懸命頑張ります」と(安藤早紀)、「家族や友人、協賛企業の方からの大きなサポートがあってここまでできたので、その応援に応えられるようなレースにしたい」と(野倉大樹)、「1ヶ月の海外遠征なのでケガをせず、堂々とした滑りをしたい。また、高校の授業に取り残されないよう現地でも勉強を頑張りたい」と(佐藤弾)と述べました。プログラムの責任者である鈴木省三教授からは「ユースオリンピックの出場権獲得は大事であるが、それ以上に選手たちをケガなく無事に帰国させることが一番重要と考えています。選手たちには遠征を通して人間として一回り大きく成長してもらい、柴田高校や被災

地となった東北地方にフィードバックできるものを得てきてもらいたい。その上で出場権が獲得できていけば言うことなしです」と話しました。

遠征期間は11月下旬までで、アメリカとカナダで開催されるユースオリンピック予選会全4戦に出場します。ユースオリンピックには、アジア・オセアニアから男女共に3名の出場枠があり、総合成績でアジア・オセアニアランキング上位3カ国に日本がランクインした場合、日本にはユース五輪の出場権が与えられます。

2年越しで取り組んできた選手育成の集大成が発揮されることへの期待と、選手たちが海外遠征を経ての成長が楽しみです。

遠征期間：平成23年10月25日～11月22日

遠征場所：パークシティ/アメリカ(第1・2戦)
カルガリー/カナダ(第3・4戦)

1. 選手

のくらひろき

野倉大樹選手(柴田高校)

さとう だん

佐藤 弾選手(柴田高校)

あんどうさき

安藤早紀選手(柴田高校)

2. スタッフ

鈴木省三教授

柳谷怜兵新助手

野澤悠樹コーチ(本学0B)

3. スケジュール概略

10月26日～28日 滑走合宿

10月30日～4日 パークシティIBTスケルトンスクール

11月5日～10日 1-5五輪予選会第1・2戦

11月13日～19日 1-5五輪予選会第3・4戦

KMCHのサークルブース移動



10月21日(金)にKKMCH2階にあるサークルブースの移動があり、16時に一斉に新しいブースへの移動を行いました。ブースは40あり、サークルによっては数多くのトロフィーを飾っているところもあるため、荷物の移動だけでもたいへんそうでした。

KMCHブースはサークル単位での交流だけでなく他のサークルとの情報共有の場とするべく、オープンスペースに敷居だけで区切られています。更に、毎年このブースをシャッフルすることで更なる情報共有が促進されることを目的としています。例年ですと6月に移動を行っていますが、今年は東日本大震災のため、半期遅れての移動となりました。

学生相談室主催研修会

「自律神経バランスを自分自身で整える ころとからだのセルフケア」 <学生相談室より>



10月11日、アイ・プロジェクト統合医療研究所、ナチュラル心療内科クリニックの竹林直紀先生をお招きして、「自律神経バランスを自分自身で整える ころとからだのセルフケア」というテーマで研修会を開催し、教職員と学生を合わせ36名の参加がありました。

今回は東日本大震災の被災者と援助者のための体験ワークショップとしての開催でした。講師の竹林先生は、日本心療内科学会認定「心療内科」専門医、日本心療内科学会登録医として、クリニックでは薬を使わずにストレスやトラウマによる心と身体の症状や病気を治療していらっしゃいます。東日本大震災の後、宮城県へも数回きて活動をされています。今回の研修会では、薬に頼らなくてもできるセルフケアの方法をご指導いただきました。

強いストレスにさらされ続けると自律神経のストレス反応が学習され、ストレスから開放されてもストレス反応が続くようになります。つまり、今回の震災のような強いストレスにさらされ、避難所生活が続いて不眠等になった場合、避難所生活から解放されてからも不眠が続

くということでした。

このような状態の自律神経へのアプローチ方法について、自分で出来る方法を体験しながら教えていただきました。行動からのアプローチでは、腹式呼吸が良い休養になるということでした。良く腹式呼吸がリラクゼーションに良いと言われます。実際に、小さな温度計を指に挟み腹式呼吸を繰り返すと、手の温度が上昇するというビックリ体験もあり、腹式呼吸の身体への影響を体感しました。

ほかに栄養面からのアプローチ方法として、低血糖予防のお話がありました。甘いものやご飯のような炭水化物ばかりの食生活だと血糖の変動が激しくなり、気分の変動が激しくなったり、体調不良となるので、たんぱく質などの摂取が大切になるとのことでした。また言葉からのアプローチでは、プラスの言葉が大切ということでした。「梅干」と聞くだけで唾液が出てくるように、私たちの身体は言葉に反応します。例えば「すみません」を「ありがとう」というプラスの言葉に置き換えて使うことで、プラスの情報が入ってきて行動につながるということです。

以上の行動・栄養・言葉の3つからのアプローチ方法を、楽しく体験しながら学ぶことができました。どれもすぐに実践できることで、日常に役立つことばかりです。今回、使用した温度計と腹式呼吸の経過を見るパソコンソフトを頂きましたので、興味のある方は是非、体験していただきたいと思います。

今後も、その時々にあった内容で研修会を開催したいと考えております。興味のあるテーマがありましたら、ご指案下さい。

女川町立第一保育所からの御礼状

3.11の震災後避難所としての役割を果たし、今月から通常の保育園業務を再開した女川町立第一保育園より御礼状が届いております。本学の同保育園での活動は、避難していた方々が仮設に移る8月までの毎週木曜日に教職員・学生（健康づくり運動サポーター）が訪問してエコノミー・クラス症候群予防体操を実施していました。



活動していた当時の様子

謹啓
 清秋の候、甚々御挨拶のことと御慶び申しあげます。
 また、この度の東日本大震災に際し、心温まる御支援と御協力を賜り、心より感謝申しあげます。
 さて、3月11日に発生した大地震は、国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、震後に発生した巨大津波と相まって未曾有の大災害となりました。
 本町におきましても、多くの尊い生命と財産を一瞬のうちに奪い取るともに、甚大な被害である水産資源及び観光資源等に甚大な被害をもたらす結果となりました。
 こうした状況の中で御寄世願いの御支援は、被災者を含めた被災者の方々の生活の再建に向けた大変重要な働きを賜りました。
 現況は仮設住宅の整備も進む、被災発生当初は数千人からあった避難所生活者も3000人程まで減少し、震災発生以降、避難所として運営して参りました本保育所についても去る8月28日をもってその役割を終え、去る10月からの保育園業務を再開することとなりました。
 本町は大変困難な状況におかれておりますが、一方で復興・復旧に向け少しずつ着実に前進しているところであり、今度も一日も早く「強と絆、豊か自然と共に息づいた誇りある女川町」を取り戻すため、全町民一丸となってこの大難を乗り越えるべく努力して参ります。
 貴学が、この度の御挨拶に随分あらためて感謝申しあげますとともに、皆様との絆の強化御支援を御祈り申しあげ、謹状ながら、貴学をもちまして御礼にさせていただきます。
 敬白

平成23年10月

宮城県 女川町立第一保育所職員一同

橋本 貞 様

みやぎ大菊花展柴田大会がいよいよ開催



柴田町の秋を彩る「みやぎ大菊花展柴田大会」が船岡城跡公園において10月20日(木)～11月13日(日)まで開催されています。20日には開

幕式が挙行され本学から佐藤滋学長補佐が参列し関係者とともにテープカットを行ないました。

今年は3.11東日本大震災があり、春の祭典「さくら祭」が中止になったことから、秋の菊まつりの開催が危ぶまれたそうですが、柴田町近隣市町をはじめ仙台市や大崎、栗原市などの菊愛好家たちの復興にかける思いは大きく、町の助成金や企業など100件以上のご協賛があり今年も無事開催する運びとなったそうです。

10月28日の競技花審査会では「仙台大学学長賞」が授与される菊も選ばれる予定です。菊花栽培愛好家の丹精込めた作品が勢ぞろいですので、期間中には是非足を運んでみてはいかがでしょうか。

学生がボランティアとして「子育て応援団 すこやか2011」に協力



小林唯さんが子供たちと開会宣言

10月22日(土)、23日(日)にセキスイハイムスーパーアリーナ(グランディ・21)を会場にして「子育て応援団 すこやか2011」(宮城県、仙台市、ミヤギテレビ、宮城県医師会などで作る実行委員会が主催)が行われました。このイベントは子供を楽しく育てることのできる社会環境づくりを目指し、来場者が楽しい時間を過ごす中から、子育ての助けになるものを一つでも持ち帰っていただく機会の提供を目的として実施されています。放射線に関するミニ講座や幼稚園・保育園児によるステージ発表、親子で楽しめるワークショップなどが行われ多くの来場者を集めました。本学からも日頃の活動で地域の方と関わる機会が多い「障害者競技スポーツ部 UNITY」(以下：ユニティー)と「障害者スポー

ツサポート研究部Co-Act」(以下：コ・アクト)の学生等約30名がボランティアとして参加し、「みんなでチャレンジ! ワクワクひろば」ブースで遊び場を提供しました。学生が事前に準備した複数の遊具や体を使ったゲームなどで子供たちは楽しそうに遊んでいました。

こはやしゆい
子供達と共に開会宣言を行った**小林唯さん**
(健福3年 / 障害者競技スポーツ部UNITY)



準備段階からコ・アクトとユニティーが協力して意見を出し合い、「家庭ではできない遊びを提供すること」、「安全に遊んでもらうこと」の2つを念頭において準備をすすめました。ダンボールで作った大きな積み木やパズル、JPクッションを使ったゲームなどでしたが、子供たちには元気に楽しく遊んでもらえたので良かったです。これまでも様々なボランティアを行ってきましたが、今回の活動が一番たいへんでした。それは来場者が多かったため休憩も取れませんでしたし、何よりも子供たちがケガをしないように終始気を配る必要があったためです。しかし、2日間とも何事もなく無事に終わることができましたし、子供たちが可愛く元気だったので楽しい2日間でした。



写真提供 坂根教授(生涯学習センター長)

子ども達に「食」の大切さを

～みやぎまるごとフェスティバル～



多彩な「味」や「技」が一堂に会し、宮城県をまるごと体感できるイベント「第12回みやぎまるごとフェスティバル」が10月15、16日に宮城県庁及び勾当台公園で開催され、本学からも運動栄養サポート研究会の学生10名と丹野准教授、

竹内新助手、菊地新助手、服部新助手が参加しました。このイベントに協力してから5年目を迎える今年は、宮城県の依頼により「キッズ食育パーク」というコーナーを任されました。このコーナーでは未来の食育の担い手である児童等に楽しみながら「食」の大切さを伝えることを目的として みんなで作ろう！「食育フラッグ」、レンジDE簡単！野菜Cake！ チャレンジ！3色食品群わ・な・げ！という3つのイベントを行い、子供たちに関心を持ってもらいました。「みやぎまるごとフェスティバル」は今年も大盛況で、学生達も子ども達との交流が楽しかったようです。



海外留学報告会

～台東大学・カヤ二応用科学大学～



10月5日（水）にF 101教室で「海外留学報告会」が開催され、台東大学（台湾）、カヤ二応用科学大学（フィンランド共和国）に留学した学生から留学先での講義や生活等について報告がなされました。今回の報告会には教職員・学生あわせて38名が聴講するために出席し、教員や学生から英語での質問が出されるなど、積極的な質疑応答がなされました。

台東大学への短期留学プログラム（2月28日～ながいのぞみ3月28日）に参加した永井希さん（体育学科4年）からは日本と台湾の比較と異文化体験が報告された後、今度は中国への留学を希望してい

るので中国語の勉強を継続し、将来は中国語を活用できる職業に就きたいとの目標が述べられました。フィンランド短期留学プログラム（2月

なかつのりひる21日～3月15日）に参加した中津範洋さん（大学

つねだみか院2年）、恒田三加さん（運動栄養学科3年）、

かのりようすけ狩野良介さん（体育学科2年）の3名からは、授業内容や留学中の生活が発表された後、留学中に起きた東日本大震災時のカヤ二応用科学大学と本学の対応について感謝の気持ちが述べられました。更に、カヤ二応用科学大学に正規留学（2010年8月31日～2011年6月30日）してい

たかはしゆうた高橋悠さん（スポーツ情報マスメディア学科3年）からは10ヶ月間のフィンランド生活ならではの闇夜期と白夜についても説明がなされるなど、たいへん有意義な報告会となりました。

報告会の最後には小松恵一先生から、月曜5コマに小松研究室（A506）にて「ドイツ（語）クラブ」開催のお知らせがありました。今後ますます多くの学生が国際交流事業へ参加することが期待されます。なお、11月には今夏行われたハワイ州立大学研修とカリフォルニア州立大学ロングビーチ校研修の報告会が開催される予定です。

CSULB短期研修報告

研修先: California State University, Long Beach



9月4日～11日までカリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）において「2011年度仙台大学秋季短期集中研修プログラム スポーツ栄養&スポーツマネジメントセミナー」が実施されました。一昨年からスタートしたこの研修は3回目となり、今回はハワイ大学ATアドバンス研修と共に、(独)日本学生支援機構から留学生交流支援制度奨学金が支給されるようになりました。また、今まではCSULBの夏季休暇中に行われていたこのプログラムが、今回はCSULBの授業が開始



されてから実施されたため、CSULB学生との交流時間を設けていただくことができ、参加した学生達はより英語を使う機会を得ることが出来ました。

参加者は引率教職員として朴澤学長、佐藤学長補佐、林准教授、岩田講師、笹生講師、真木新助まつもと けいすけ手、遠山事務職員の7名、学生は松本玲奈さんまつもと りゅうな(運動栄養1年)、松本雄也さんまつもと ゆうや(コーチング2年)、鈴木春菜さんすずき はるな・中村麻衣さんなかつむら い・櫻井潤平さんさくらい じゅんぺい(マネジメント2年)、森麻衣子さんもりまいこ・高木美咲さんたかき みさき・東館亮太郎さんひがしだてりょうたろう(運動栄養2年)、進藤亮祐さんしんどうりょうすけ(運動栄養学科3年)、奥山隆寛さんおくやま たかひろ(トレーナー3年)、大黒ゆきこさんおおくろ(スポーツ情報マネジメント4年)の11名です。

プログラムをより充実したものとするため、研修初日に岩田講師・笹生講師によるスポーツ栄養・スポーツマネジメントの事前レクチャーが行われ、林准教授は最終日に行う英語発表の指導をしてくださいました。これらの予習を通して学生

たちは専門外の講義でも興味を持って聴講することができ、またそれぞれ専門の講義ではより積極的に講師に質問をすることができたようでした。

スポーツ栄養に関しては2回の講義が行われ、スポーツドリンクや栄養補助食品のラベルを見て運動後にふさわしいものかを判断する、より実践的な演習形式の授業に学生達は熱心に取り組みました。プロ選手を含む運動選手の栄養指導を実施している施設の見学では、栄養士の方が施設で実践している栄養指導について説明をしてくださり、運動栄養学科の学生たちから次々と出てくる質問にも丁寧に答えてくださいました。

スポーツマネジメントの分野ではスポーツクラブのトップマネジメントなどについて2回の講義を受講し、少年野球用の施設とデビッド・ベッカム選手が所属しているプロサッカーチームLA GALAXYのホームであるスタジアムを見学しました。これらの授業や施設見学を通し、日本と比較してスポーツの産業化が進んでいるアメリカを肌で感じる事ができました。マネジメントコース2年の鈴木春菜さんは「それら(日米スポーツマネジメントの違い)は文化や習慣の違いによるものではないかと思いました。両方の良い部分、悪い部分を見つめて、これからより一層知識を深め、将来につなげていきたいです。」と述べていました。

最終日の修了証授与式では学生達が事前に日本で準備してきた英語によるプレゼンテーションが行われ、仙台大学や仙台のスポーツの紹介、震災の報告をしました。CSULBの教職員の方々には日本が被災したことに心を痛めながらも、学生たちの堂々とした力強い発表に暖かい拍手を送ってくださいました。



ハワイ州立大学研修報告

研修先: University of Hawaii



8月30日～9月5日の日程でハワイ州立大学 A T アドバンスコース研修が実施され、朴澤学長、佐藤学長補佐、山野准教授、高崎講師、笠原講師、白幡新助手、佐藤広報室長、若生事務職員と多田朝(体育学科4年、以下同じ)、狩野芳明、千葉宣貴、松島遥香、佐々木千花(運動栄養学科4年)、遠藤蓉子(体育学科3年、以下同じ)、貝沼由香里、菅原夕貴、三浦結の9名の学生が参加しました。今回で13回目を迎えるこの研修が今までと大きく違うのは、カリフォルニア5州立大学ロングビーチ校研修と共に、体育大学で唯一、独立行政法人日本学生支援機構からの奨学金を獲得したということです。これは、これまで継続してきた独自の取り組みが認められたという意味で、非常に大きな成果であり、参加する学生たちにとってもより身の引き締まる思いだったのではないのでしょうか。

研修初日には、ハワイ州立大学医学部で行なわれる「献体解剖」を見学しました。学生たちは実際に献体に触れることが許され、筋肉や腱、骨の付き方などを注意深く観察し、テキストでは理解しにくい部位を学び取ろうと積極的に意見を交わしていました。

翌日以降は、早朝からハワイ州立大学のATルームを訪れ、アメフト部の練習に帯同するATの活動を見学したり、マッキンリー高校 A T ルームで実際に現地の高校生を相手にテーピングするなど充実したプログラムを精力的にこなしました。他には、ハワイ州立大学のAT関連の講義や英会話の講義に出席しました。

この研修をとおして、学生たちは、日米間のATを取り巻く環境・教育体制・法律・認知度・職域の違いや大学スポーツを取り巻く環境の違いを肌で感じることができたのではないかと思います。また、多くの日本人ATC(全米公認アスレティックトレーナー)から話を聞く機会があり、それぞれの日本人ATCの行動力と自らの希望を実現する活気に、学生たちは良い刺激を受けたようでした。人と人の繋がりを大切にする、人との出会いが今日を形成しているということをお話いただき、これから社会に出る学生たちにとっては、とても意義深い経験になったことと思われます。

今回は上記AT研修と同時に、健康福祉学科の学生を対象としたプログラム立案の可能性を探るため、山野先生、高崎先生、笠原先生が現地スポーツクラブや老人福祉施設等6施設を視察しました。日本との根本的な違いは、アメリカは国民皆保険制度がないために、全額自己負担で利用するという点でした。ハワイ州は、全米一高齢化率の高い州であり、介護や福祉に関するサービス提供とその方法は、今以上に話題に挙がるだろうとお話でした。

11月中旬に、開催予定の報告会では、なお一層学生達の励みとなりますよう、一人でも多くの方々のご参加をよろしくお願い致します。



イギリスで海外研修中の朴賢貞准教授より研修報告

研修先: University of Leicester & De Montfort University, Kingston University

1. 研修先での所属及び研修内容

レスター大学で私が所属しているのは医学部にある医療と社会教育学部に所属しております。9月26日から新学期が始まり、医学部の講義に参加しております。レスター大学で実施しているIPE実習プログラムは複数あり、医学部が中心になり地域にある他の大学との連携を取りながら共同のIPE実習を学年別行っています。学年別行うIPE実習プログラムすべてに参加する予定です。今年は10月から12月上旬まで次々と実習グループが地域に出向いて異なる学科学生で構成される5-6人のグループでIPE実習が行われる予定です。来年は1月から3月まで次のメンバーが参加する予定です。主に地域医療と病院を対象にIPE実習を実施しています。

新学期が始まる前までは、教員の教授法に関する講義（教員が参加する）や新学期の準備作業を手伝ったり、IPE実践の実生のIPE実習のための打ち合わせ（医者、地域看護師、助産婦、ソーシャルワーカー、OT、PT、薬剤師、子供相談士、シティセンター行政責任者、IPE実習の個人Tutorなど）を行い、IPE実習準備を行いました。

レスター大学での実習の関してはLiz Anderson教授とアカデミックコーディネーターのDebbie Forstの仕事に注目しながら日程を一緒にしております。

2. De Montfort University

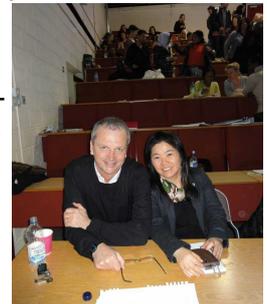
歩いて20分程度のところにあるDe Montfort Universityでは薬剤学科、言語治療士、看護学科、ソーシャルワーク学科、助産科などの学生の講義に関わりながら研修を行っております。De Montfort UniversityでのIPE実習は今年が3年目の試みである、薬剤学科（De Montfort University）、医学部（University of Leicester）のIPCP（Inter professional Care Plan）実習に参加し、学年ごとに全部参観し、学生のグループ活動や病院、地域訪問実習時は同行しながら参加しております。地域にある病院や施設との連携が本当に良くできており、環境的にもIPE実習をするのに適している大学であることが改めてわかりました。

レスター大学には社会福祉学科がないので（社会福祉学科は大学院のみある）実習の時はこちらの大学の学生が医学部の学生と一緒にIPE実習をチームで行います。

こちらの大学ではSALT（Speech and language therapy）学科教授であるJenny Ford教授が私のスケジュールを担当してくれており、週何日間はDe Montfort Universityの講義や実習に参観しております。

3. Kingston University

最後に、ロンドン南部KingstonにあるKingston Universityはこれから時期をはかり定期的に行く予定です。こちらはソーシャルワーク学科が中心になり、大学院生のIPE実践に関わる予定です。関連学科はソーシャルワーク、看護、医療、リハビリ、地域医療などの関連学科の学生が参加するプログラムです。こちらはIPE実習期間に合わせてUniversity of LeicesterやDe Montfort UniversityのIPE実習期間と重ならない時期を図り参観する予定です。



IPE実習の振り返り時間です。左側の方は社会福祉学科のMark Martin教授

4. CAIPE活動

大学以外では、イギリス政府の元で活動しているCAIPE（Centre For The Advanced of Interprofessional Education）が主催する理事会議に定期的に1年間参加する予定です。9月20日はUniversity of Nottinghamでの会議に参加しました。



CAIPEの理事会の時のNottingham Universityで開かれた会議。左側の方はJenny Ford (De Montfort University)

これは私のイギリス研修を最初から招聘状を下さったCAIPEの会長であるHugh Barr先生が特別に推薦して下さったので可能でした。CAIPEではイギリスの国内及び海外のIPE教育の在り方について教育を行ったりIPE専門ジャーナル（Journal of Interprofessional Care）を発行する他、学生個人や大学、医療保健福祉分野の施設や機関の団体会員を募集してイギリスだけではなくEuropの国々のIPE関連教育や組織のIPE政策のすべてがこの機関から作られているのでとても勉強になります。アジアでも日本の複数の大学が団体会員になっており、香港、オーストラリアなどの大学が会員になっています。

5. 学会参加

去る9月14日から16日まではBelgiumのGENT市に位置しているGhent Universityで開かれた第4回目のEIPEN（European Interprofessional Education Network）に参加し、IPEに関連する研究動向や交流をはかることが出来ました。来年（2012.10.5-8）はATBH（All Together Better Health）国際カンファレンスが日本の神戸にある神戸学院大学で開かれる予定で医療関連の学会がいくつか共同で開かれる学会にEIPEも共同で行うようです。とても盛大な大きな国際学会の準備をしているようです。

軟式野球部が7年ぶりに東北地区を制して全国大会出場

軟式野球部が、10月7日に開催された「第33回全日本大学軟式野球選手権大会東北地区代表決定戦」を制し、7年ぶり2度目の全国大会出場を決めました。全国大会は、11月19 - 23日に熊本県で開催されます。

監督兼主将でエース

なるみたかや

鳴海貴也さん（体育学科3年）



部員は約40名で、そのほとんどが高校時代に硬式野球部の経験を持っています。練習は柴田町内の並松グラウンドで週に3~4回行っています。部員たちは自主性を持ち、楽しく、和やかであることが部内の雰囲気です。部員の野球に取り組む意識も様々で、「勝利にこだわる部員」、「野球を楽しみたい部員」、「週に1度体を動かしたい部員」など様々です。これらの部員を監督兼主将として1つにまとめるのはたいへん感じる時もありますが、そこは高校まで甲子園を目指していた負けず嫌いな



部員達なので、試合が始まるとスイッチが入ったように一体となって、結束して勝利に向かう姿は見事です。

春に新チームを結成してからは公式試合・練習試合を通して負けておらず、負のイメージが微塵もありません。この勢いのまま全国大会では「まず1勝」を目標に頑張りたいです。全国大会まで1ヶ月しかありませんが、全国でも勝てるチーム状態に仕上げたい大会に臨みたいと思います。

男子バスケットボール部が12年ぶりの東北大学リーグ制覇



男子バスケットボール部が「第12回東北大学バスケットボールリーグ」において優勝を果たし、全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）の出場権を勝ち取りました。本学男子バスケットボール部の東北リーグ制覇は12年ぶりのことです。同法人である明成高校との高大連携事業によるバスケットボール強化に着手して7年目。明成高1期生が大学4年生となった今年は、各々のレベルと共にチーム力が着実に向上しています。東北地区第1代表として全国の舞台での躍動が期待されます。

インカレは国立代々木競技場第二体育館等（東京都）で11月21日~27日に開催されます。お近くにお住まいのOB・OGの方々、是非バスケット部員に温かい声援をお願いいたします。

とりたたいよう

主将の鳥田泰洋さん

今年は、コート上の選手がチームのために何が出来るかを常に考えてプレーし、試合に出ていないメンバーもチームの勝利のために何が



出来るかを考えてするチームです。そのため、今回の東北リーグ制覇はバスケットボール部員全員の力で勝ち取った優勝です。

この「チーム一丸となって戦う」大切さは、昨年就任した村田健一監督の教えで、部員全員が共通理解しています。インカレでは東北地区第1代表としてチーム一丸となり、勝利にこだわったチームプレーをしたいです。また、全国に散らばった高校のときの仲間とインカレの舞台で対戦することも楽しみです。

【個人賞】

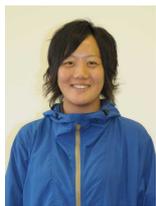
- ・最優秀選手賞 とりたたいよう 鳥田泰洋さん（体育4年）
- ・ベスト5賞 さとうふみや 佐藤文哉さん（体育3年）
- すがわらけいた 菅原敬太さん（体育4年）
- たがしゅうぞう 田賀脩造さん（健康福祉3年）
- ・3ポイント王 さとうふみや 佐藤文哉さん（体育3年）

女子サッカー部「インカレ東北地区予選」2連覇



女子サッカー部が全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）東北地区予選大会を全試合無失点で制し、インカレの切符を勝ち取りました。初出場した昨年のインカレでは1次リーグで敗退しましたが、今年は1次リーグ突破（＝ベスト4）を目指してチームが一丸となっています。是非、温かい声援をお願い致します。

主将の阿部千紘さん(スポーツ情報マネジメント学科)



創部から今年で5年目ですが、年々選手の層が厚くなっています。特に今年は、プレー中に自分自身で考えて判断できる選手、積極的に練習に取り組む選手ばかりです。そんな選手たちが連動してチームとして全員サッカーができていますので、日頃のパフォーマンスを出し切れれば全国でも十分戦える自信があります。

今年のインカレでは、仙台大学女子サッカー部が新たな1歩を踏み出せるような歴史に残る大会にしたいです。

第20回全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）

<1次R>2011年11月25日～27日

J-GREEN堺（大阪）

<準決勝> 2012年1月3日（東京）

<決勝戦> 2012年1月5日（東京）

なお、女子サッカー部は10月16日に決勝が行われた東北地区女子サッカー選手権大会（決勝戦10/16）を初制覇し、12月3日から行われる全日本選手権大会に東北代表として出場します。あわせて応援ください。

第33回全日本女子選手権（主催：財団法人日本サッカー協会）

<1回戦>2011年12月3日、4日（兵庫、三重）

<2回戦>2011年12月10日、11日（静岡、香川）

<3回戦>2011年12月17日、18日（岡山、広島）

<準々決勝>2011年12月23日（埼玉、兵庫）

<準決勝> 2011年12月27日（東京）

<決勝戦> 2010年1月1日（東京）

片桐亜子さんが東北学連選抜チームとして出場

～ 杜の都全日本大学女子駅伝～

10月23日(日)に仙台市を会場として行われた「杜の都全日本大学女子駅伝（第29回全日本大学女子駅伝対校選手権大会）」に陸上競技部の片桐亜子さん(体育学科2年)が東北学連選抜メンバーとして出場しました。片桐さんは昨年も東北学連選抜に選出されましたが、大会直前に体調を崩して出場を断念した悔しい経験をしています。今年は、昨年の悔しい気持ちと、仙台大学チームとして出場が叶わなかった部員の想いも背負って走ったそうです。片桐さんは任された4区4.9km（西公園こけし塔前から上杉山中学校前を經由しネットヨタ仙台黒松店前までのコース）で、2つ順位をあげる力走を見せてくれました。



片桐亜子さん(体育学科2年)

東北学連選抜チームの目標は2つ。過去に達成できていなかった「ゴールまで襷をつなぐこと」と、東北地区代表の「東北福祉大学に勝つこと」でした。結果は2時間19分27秒の19位相当（オープン参加のため順位は出ない）で襷を最後までつなぎ、東北福祉大学よりも先にゴールすることができました。

個人としても、レース展開は納得のいくものでした。普段はペース配分に失敗し、後半にスピードを落とすことがあるのですが、今大会ではペース配分を順調に刻むことができ、楽しく走ることができました。しかし、タイムだけを見ると決して納得のできるものではありません。全国のトップ選手に劣っていることは明らかなので、冬季の走り込みをしっかりと行い、来シーズンはトラックでも勝負できるようにトレーニングしていきたいです。